

外国語活動ー 1 (第 5 学年)聞く・話す意欲を高めるとともに意見と根拠を述べることでより理解し合えることに気付く事例
【学習活動の概要】

1 単元名 スペシャルデー・スペシャル教科時間割表をつくろう「英語ノート1※」Lesson 8		
2 単元の目標 世界の小学校生活に興味をもち，他国の時間割を参考に作成したスペシャルデーの時間割やスペシャル教科時間割について，積極的にクイズで尋ねたり答えたりしようとする。		
3 評価規準 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 ・時間割について積極的に尋ねたり発表したりしている。 【外国語への慣れ親しみ】 ・学習する教科を尋ねたり言ったりしている。 【言語や文化に関する気付き】 ・学習する教科について，世界の国々と日本との違いや共通点に気付いている。		
4 教材 「英語ノート1※」Lesson 8をもとに，本単元では好きな教科等についてインタビューしたり，クイズを出したり答えたりする活動を行う。教科名の他に，曜日も扱う。		
5 主な学習活動 (1)単元の指導計画（全4時間）		
時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
1	・他国と自分たちの学級との時間割を比べて，その特徴をとらえる。 ・教科の言い方を知る。	・なぜそう思うのかを，理由とともに述べさせる。
2	・好きな教科をインタビューする。 ・教科名・準備物ゲームをする。 ・他国の時間割を参考にスペシャル教科を考える。	・分からない言葉があっても，類推しながら話を聞かせる。 ・ジェスチャー等，非言語の手段も活用させる。
3	・時間割の見本を見て，その作り方を 知る。 ・やり取りをして教科のカードをもら ってスペシャルデーの時間割を作る。	・分からない言葉があっても，類推しながら話を聞かせる。 ・ジェスチャー等，非言語の手段も活用させる。 ・相手にはっきり伝わるよう言わせる。
4 本時	・スペシャル教科をクイズ形式で発表 する。 ・スペシャルデーの時間割の特徴を 発表する。	・分からない言葉があっても，類推しながら話を聞かせる。 ・ジェスチャー等，非言語の手段も活用させる。 ・相手にはっきり伝わるよう言わせる。
(2)本時の学習 目標 作成した時間割について，クイズで相手に伝わるよう工夫して尋ねたり答えたりしようとする。 本時の展開 ①あいさつをする。 ②チャンツ "What do you like?"を言う。 ③本時のめあてと流れとを確認する。 ④時間割の紹介の仕方を知る。 ⑤グループで時間割を発表する。 ⑥全体の前で時間割を発表する。 ⑦振り返りをする。		

※「英語ノート」：平成21～23年度文部科学省発行による外国語活動教材より

【解説】

【指導事項と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領 第4章外国語活動 第2内容1「外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。」の(1)「外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。」、(3)「言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。」と、第3指導計画の作成と内容の取扱いの2(1)ア「外国語でのコミュニケーションを体験させる際には、児童の発達の段階を考慮した表現を用い、児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定すること。」とを取り上げて指導するものである。

【言語活動の充実の工夫】

外国語活動において、各単元に設定されている使用表現を使って、聞きたい、話したいと意欲のわくような題材、活動を設定することが大切である。そこで、本時では、各児童が独自に考えたスペシャル教科を含んだ時間割を作成し、クイズ形式で発表する。そうすることにより、友達のスペシャル教科を知りたい、自分のスペシャル教科を知ってほしいと、聞く・話す意欲が高まるようにするとともに、根拠を述べることで互いの理解が深まるようにした。

○スペシャル教科をクイズ形式で発表する

代表児童が、作成したスペシャルデー・スペシャル教科時間割を、以下のようなやり取りをしてクイズ形式で発表する。聞き手は、黒板に貼られた複数の時間割の内それがどれかを当てる。

S2: What do you study on Monday?

S1: I study science.

S3: What do you study on Tuesday?

S1: I study math.

S4: What do you study on Friday?

S1: I study Japanese.

S5: No.2? (黒板に貼ってある5種類の時間割の内のNo.2)

S1: That's right!

クイズ形式にすることにより、聞く側の児童はどの時間割かを当てるために聞き、話す側の児童はどの教科を答えたら当たりにくいかを考えながら話すことになり、児童は積極的に使用表現を活用してコミュニケーションを図っていた。

○スペシャル教科を発表する

クイズ形式で時間割を紹介した後、各児童は自分のスペシャル教科を発表する。その際、なぜそのような教科を作ったのか、日本語も交えつつその理由も伝える。例えば、Star watching というスペシャル教科を設定した児童は、「I like stars. みんなと見ることができたらもっと楽しいからです」とその設定理由を紹介したところ、クラスから拍手が起きた。

このように、発表内容にオリジナリティーがあることで、聞く・話す必然性が生まれるとともに、自分の思いや考えを相手により理解してもらうために、根拠も併せて示すことが大切であることに気付かせることができる。